

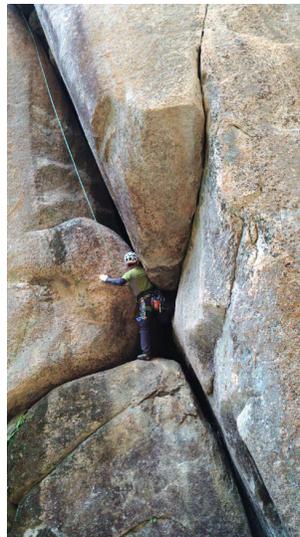
## 瑞牆山のクライミング その2、その3 堀江 誠克

■山行年月日:2022年10月23~24日  
■メンバー:堀江誠克 大橋哲也(非会員)

ここ数年のクライミング界ではトラッククライミング、中でもワイドクラックに注目が集まっている。10代後半から本格的にクライミングを始めたころ、フリークライミングと言えばクラッククライミングだったし、その後、ビッグウォールを目指していたヨセミテ修行時代も、ルートのキーポイントになるところには必ずワイドクラックがあった。サラテウォールのホーロウフレイクしかり、ノーズのテキサスフレイクしかり、センチネル、スティック・サラテのザ・ナローズしかり。だから、懐かしさとともにワイドに注目が集まっている状況が嬉しくもある。穂高や剣、一ノ倉沢から完全にクライミングの中心地が小川山、瑞牆山、二子山などに移っている現在、自分もご多分に漏れず瑞牆通いをしている。瑞牆のワイドと言え、不動沢。

今回は数ある不動沢のワイドルートの中でも、必ず登っておきたい「牛乳瓶クラック」を登り、翌日はしじま谷の☆付チムニールート「トラベルチャンス」にトライした。「牛乳瓶クラック」はオンサイトを逃し、2便目でRPしたが、このルートはフォローが必要で、一緒に行ったパートナーの大橋さんは2回ともフォローしてくれた。しかも大橋

さんはすでに牛乳瓶クラックはRPしているにもかかわらずだ。本当に感謝、感謝である。「トラベルチャンス」はグレードこそ、5.10aだが、ランナウトの耐えながらかぶったチムニーを登ってい



くルートで一筋縄でないかない。オンサイト狙いで取付いたものの、たった20mほどのルートに1時間半に粘って結局出口でフォール。残念な結果となった。

■山行年月日:2022年11月16~17日  
■メンバー:堀江誠克、佐藤有(非会員)

### 16日 春うらら 1p目

懇意にさせてもらっている大先輩と瑞牆。瑞牆といえば、春うららである。十一岩の末端壁にあるこの2pのルートは日本のクラッククライミングの古典。今でこそグレード的には1p目5.11b、2p目5.12aと決して難易度が高いとはいえないものの、その質の高さ、歴史的な意味を考えるとクラッククライマーなら外せない1本なのである。

2年前に一度トップロープで触ったことがあるが、本格的にトライしたことはなかった。そう簡単に登れるルートではないから、今回もとりあえず終了点にたどり着くことを目標に取り付いてみる。

まずは、調和の幻想 1p 目 5.9、25m でウォームアップする。晴れてはいるが、日が差しておらず、寒い。岩もキンキンに冷えており、すぐに指先の感覚がなくなる。調和の幻想ルートは 5p あり、どのピッチもすっきりとして瑞牆山らしいクライミングができる☆付きルートだ。何度も登っているが、いつも朝イチなので、動きがぎこちない。すべてナチュラルなので、充実する。終了点についてクイックドロ―2本でトップロープを張る。下りながら回収し、先輩と交代。先輩もノーテンションで登り切った。

春うらら 1p 目。取付きからすでにかぶっており、スモールカムがようやく一つ決められる。出だしのムーブ的にはフェイス登りであり、ボルダー的な強度が求められる。ここは 5.11a と言われている。ハンドサイズが決まる数mをこなすとルートはカンテを左にまたぐようになり、長いコーナーへ入っていく。この切り返しが全体を通した核心部でチェンジングコーナーと言われている。5.11b のポイントだ。手前に #3 を決めてステミングしてフィンガーを決めていく。#0.4 を決めてテンション。何度かムーブを探して体の向きを変えることができるようになった。数手先にガバがあり、ここで核心は終了。想像より厳しくはない。あとは長いコーナーをひたすら登っていく持久力の世界。無事終了

点にたどり着き、トップロープをセットする。休日には順番待ちのクライマーで大人気のここ末端壁にも平日の今日は誰もおらず、貸し切りだ。気兼ねなくトップロープで練習できる。思ったほど難しく無かったので、次来た時には本気トライしたい。となりのトワイライト 5.11c も最後にやってみるが、全く歯が立たない。こちらは、また別格だった。



十一面岩末端壁にて

17日 山賊黄昏 79～カナトコルート

昨日は気温も低く冷たい風が吹いていたので、末端壁だったが、今日は気温も上がり、風も弱い予報。よってマルチを登りに行く。ルートは十一面岩のカナトコピークへ突き上げるライン。この周辺はベルジュエールをはじめとして、すばらしいマルチピッチのルートが多数ある。以前、左岩壁の下部をカナトコルート、上部を山賊黄昏 79 ルートからた

どったことがあるが、今回はその逆パターンでカナトコ岩のピークに立つラインをとった。みずがき自然公園駐車場から2時間ほどのアプローチで巨大な燕ハングの左下へ。荷物をデポして取付きの目印であるピナクルへ移動。

1p目、ルート図を見る限り、ピナクル左側のフェースを登るようになっている。きわどいフェースをトラバースしてカムを決め、リングボルトにクリップしてハングを越えようとするが、どう考えてもフリーでは無理。このピッチは5.9のはずだが、おかしい。いったんクライムダウンしてピナクルまで戻る。別なガイドブックでもう一度見直してみると、こちらではピナクルの裏側から取付くようになっている。あまり登られている形跡はないが、裏側までロープを伸ばす。こちらが、正規のラインのようである。かつて一部エイドで登られていたラインらしく、リングボルトがところどころに打ってある。現代のフラットソールのフリクションをもってすれば、大したことはない。右に左にスラブの弱点をみつけながら、上部のワイドセクションへ。出口の0Wも楽しめる爽快なピッチだった。フォローで大先輩を迎える。

これより、山賊黄昏79の1p目終了点



まで水平トラバース。難しくはないが、高度感がある。2p目、山賊黄昏79の2p目を登り大テラスへ。ここも細かいクラックのレイバックや微妙なスラブの立ち上がりがあつて楽しい。快適に大テラスへ。ここから山賊黄昏と分かれ、樹林帯の中を2pほど進む。岩場につきあたったら、左に進み、西側の稜線上にあるテラスまで。6p目は簡単なワイドクラックから傾斜の緩いカンテ下を進む。おおきなテラスでピッチを切る。7p目、いろんなラインが登られているようだが、一番すっきりした頭上のジェードルをたどり、短いワイドクラックへ。通常はここでピッチを切るようだが、カナトコのピークはすぐ上なので、ボルトの打つてあるフェース、カンテにロープを伸ばし、ピークの終了点へ。

大先輩を迎え入れ、しばし狭いピークで眺めを楽しむ。大先輩が隠し持っていたパンを二人で分け合い、北岳、甲斐駒、八ヶ岳、遠くには富士山と素晴らしい展望を楽しむ。思っていたほど寒くなく風も弱かったので助かった。

下りは一旦、山河微笑の終了点まで移動し、山河微笑ルートを懸垂下降する。今日は平日なので、人気ルートの山河微笑を登ってくるパーティはなく、気兼ね無く懸垂できる。5pの懸垂下降で取付きへ。取付きでギアを整理し、温かい飲み物と行動食を摂って、充実感に包まれながら下山。